

令和7年度公益財団法人可児市体育連盟事業計画

	事業名	開催予定日	会場
1	体連かに発行（4月号）	4月1日（火）	
2	総合体育大会委員会	4月中旬	錬成館
3	第44回可児市総合体育大会開会式	4月27日（日）	錬成館
4	スポーツ教室（太極拳）	4月～6月	錬成館
5	スポーツ教室（ステップエアロ）	4月～6月	錬成館
6	スポーツ教室（ヨガ）	4月～6月	錬成館
7	定時理事会	5月下旬	錬成館
8	定時評議員会	6月14日（土）	錬成館
9	広報広聴委員会	6月中旬	錬成館
10	スポーツ教室（モーニングヨガ）	6月～7月	錬成館
11	スポーツ教室（骨盤底筋トレ&メンタルケア）	6月～7月	錬成館
12	可児シティマラソン委員会	7月	錬成館
13	第55回可茂地区体育大会	7月13日（日）	可茂地区
14	指導者講習会	未定	市内公共施設
15	第17回岐阜県民スポーツ大会	9月21日（日）	飛騨地区
16	スポーツ教室（美温活&ヒラティス）	9月～11月	錬成館
17	スポーツ教室（ヨガ）	9月～11月	錬成館
18	スポーツ教室（エアロビクス&フットセラピー）	9月～11月	錬成館
19	体連かに発行（11月号）	11月1日（土）	
20	第68回可児駅伝競走大会	12月14日（日）	ぎふワールド・ローズガーデン
21	スポーツ教室（セルフソフケア）	11月～12月	錬成館
22	スポーツ教室（大人HIIPHOP）	11月～12月	錬成館
23	総務委員会	1月中旬	錬成館
24	岐阜県民スポーツ大会・冬季大会	1月～2月	未定
25	定時理事会	1月下旬	錬成館
26	定時評議員会	2月7日（土）	錬成館
27	第42回可児シティマラソン	2月15日（日）	ぎふワールド・ローズガーデン
28	スポーツ教室（簡単トレ&ソフケア）	2月～3月	錬成館
29	スポーツ教室（ヒラティス&ヨガ）	2月～3月	錬成館

・上記委員会以外の委員会については、必要に応じて随時開催することとします。

令和7年度・令和8年度公益財団法人可児市体育連盟事業計画
スローガン「示せ躍進 広げようふれあい 可児市体連」

【基本方針】

公益財団法人可児市体育連盟は、可児市のアマチュアスポーツ団体の統括団体として、可児市の施策に呼応し、広くスポーツの日常化に向けた諸施策を展開するとともに、競技力の向上に努めます。

施策を展開する上で、国の第3期スポーツ計画並びに岐阜県の第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画の施策を踏まえるとともに、可児市市政経営計画に基づく重点事業で示された施策の実現に向けた取り組みを推進して参ります。

これまでと同様、当連盟としては加盟団体と連携し、子どもから高齢者までのあらゆる世代が、それぞれの関心や体力、適正等に応じて、様々なスタイルで気軽にスポーツを楽しみ、スポーツの持つ力で生涯にわたり健やかで、生きがいを得られる「住みごこち一番・可児」のまちづくりに寄与し、もってアマチュアスポーツの健全な普及と発展につながる公益事業を積極的に進めて参ります。

これまで推進して参りました「みるスポーツ」、「するスポーツ」、「ささえるスポーツ」の三つを柱とする市民のスポーツ活動を促進し、元気なまちづくりに努めることを重点とし、スポーツ施設を活用したイベントの開催や、市民自らスポーツに取り組む機会の創出と環境を整えていくことで一市民一スポーツを推進して参ります。

【重点】

1. 体制強化と組織の拡充と育成
2. 競技力の向上
3. 生涯スポーツの普及・振興
4. 青少年のスポーツ環境の整備と活動の活発化
5. 広報活動の充実とスポーツ愛好家の拡大
6. 財政基盤の確立
7. スポーツ施設の適正管理と有効活用
8. 事務局体制の充実と職員の資質向上

【具体的施策】

1. 体制の強化と組織の拡充と育成

スポーツによるまちづくりを積極的に推進するため、当連盟の委員会を再編し、時代の変遷に対応可能な組織体制を確立強化するとともに、加盟競技団体の拡充と会員の拡大、団体相互の協力体制の確立を目指す。

- (1) 競技団体の組織強化・拡大

加盟競技団体の会員の拡大を図るため、広報・啓発の充実を図るとともに、競技団体自らスポーツに取り組む環境を醸成する支援を進める。

- (2) 新たな加盟団体の発掘と育成

未加盟の競技団体やスポーツ推進団体を発掘し、加盟への働きかけを行うとともに育成に努める。

- (3) 団体相互の協力体制の支援

当連盟の委員会を再編し、加盟団体相互の情報交流の場の創出や、相互協力が可能な体制づくりの構築に努め、スポーツによるまちづくりを積極的に推進する。

2. 競技力の向上

岐阜県民スポーツ大会において、総合第3位を順位目標とする。競技力の向上に資するため、優秀選手の発掘や育成、優秀指導者の資質向上に努める。

(1) 優秀選手等の発掘

可児市総合体育大会を広く周知し参加者の拡大を図るとともに、学校や地域、職場等と連携し、優秀選手やチーム等の発掘や育成に努める。

(2) 優秀指導者の育成

スポーツ指導者に求められる知識や能力の向上のため、スポーツ科学に着目した講習会等を開催し、指導者の資質向上に努めるとともに、指導者同士の交流の場を提供する。

3. 生涯スポーツの普及・振興

スポーツ愛好者の拡大を図るため、生涯にわたり健やかで、スポーツを通じて生きがいを得られる機会を創出する。

(1) 可児市総合体育大会の開催

競技団体が主体となり、団体のPRを兼ねた大会の計画立案や大会運営を推進するとともに、大会の開催を通じ、市民のスポーツへの関心と実践の機運を醸成し、自らスポーツに取り組む機会を提供する。

(2) 可児シティマラソン大会・可児駅伝競走大会の開催

冬季におけるスポーツへの参加を促すため、全加盟団体の総力を結集し、事業実施する。

マラソンにおいては、ハーフの部を再開するためコース等の再検討を進める。

(3) スポーツ教室の充実

時勢に応じたプログラムを企画立案するとともに、講師や参加者からの意見を集約し改善と実践を継続し、参加者の拡大を図る。

(4) スポーツを通じた共生社会の実現

誰もが、スポーツのもつ楽しさや喜びを受け、様々な立場や・状況の人と「ともに」スポーツを楽しめる環境の構築を通じ、スポーツを軸とした共生社会の実現を目指す。

4. 青少年のスポーツ環境の整備と活動の活発化

スポーツ少年団本部や学校、地域スポーツクラブと連携し、青少年のスポーツ活動の環境整備に努める。

(1) スポーツ少年団の団員確保と育成

スポーツ少年団本部と各学校区（育成会）等との連携を強化するとともに、団員の確保に努める。

(2) 各競技種目のジュニア選手育成

次の世代を担うジュニア競技者の発掘、育成に努めるとともに、国際大会や国民スポーツ大会等の上位大会に出場する優秀選手の発掘や育成に努め、教室の開催などによりジュニア部門の裾野を広げる。

(3) 中学生のスポーツ環境整備

中学校部活の地域移行に伴う、学校やスポーツ少年団、可児UNICスポーツクラブとの連携を強化し、実施環境の確保や活動を支援する。

5. 広報活動の充実とスポーツ愛好家の拡大

本連盟の活動内容をより多くの市民に理解してもらうため、広報活動の充実を図るとともに、スポーツに関する情報提供を積極的に行う。

(1) 広報活動の充実

広報誌「体連かに」の内容を充実し、引き続き定期発行する。

連盟ホームページの充実やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信など、リアルタイムな情報提供に努める。

可児市やケーブルテレビかに、新聞社などの報道機関との連携を強化し、広報活動の

充実を図る。

(2) スポーツ関連情報の収集と提供

岐阜県スポーツ協会やスポーツ関係団体、加盟競技団体と連携し、スポーツ情報の収集に努めるとともに、市民に分かり易い情報を提供する。

6. 財政基盤の確立

市民へのスポーツ機会の創出と環境整備に必要な自主財源の確保に努め、中長期的な財政計画を立案する。

(1) 賛助会員制度の啓発活動充実

世界的な景気低迷による厳しい経済情勢の影響を受け、賛助会員が減少しつつあることから、賛助会員制度の啓発に注力し、会員の拡大を図る。

(2) 基本財産の適正な管理・運用

基本財産の安全で確実な管理に努めるとともに、安全性が高く果実を収穫できる基本財産の運用方法を調査・研究する。

(3) 施設修繕計画

可児青少年育成センターの改修計画を作成し、維持管理・更新等に係る対策の優先順位を定め、長期的な視点から財政負担の軽減・平準化を図りながら老朽化対策等に取り組むための財政基盤の確立を図る。

(4) 委託事業の受託

指定管理事業のほか、可児市から施設管理等の業務を受託することで、より安定した組織経営を目指す。

7. スポーツ施設の適正管理と有効活用

可児青少年育成センター“錬成館”の適正管理に努めるとともに、指定管理業務においては、可児市体育施設の効率的な運営を推進する。

(1) 可児青少年育成センター“錬成館”の適正管理

施設の予防保全に努め、安全で快適な環境を提供できるよう心掛ける。

ライフサイクル全体の施設の改修計画を作成し、必要な経費の確保に努める。

(2) 指定管理事業

職員同士の情報共有と連携を軸にした体制づくりを図り、利用者にとって安全で有意義な活動場所の確保に努める。

アンケート等の実施により、利用者の声やニーズを反映した施設の環境整備や各種イベントの企画など、より快適で利用しやすい施設運営に努める。

8. 事務局体制の充実と職員の資質向上

職員一人ひとりが高い目標意識を持ちつつ、連盟の一員として本事業計画に沿った事業の企画・改善など、時流に対応し得る人材の育成に努める。

(1) 職員体制の充実と外部機関との連携強化

内部会議により、職員間の意思疎通、協力体制の充実を図る。

(2) 職員の資質向上

有効な知識や資格を得るため、積極的に講習会等に参加し、職員のスキルを高めるとともに資質の向上に努める。